
子猫

和波智淳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

子猫

【コード】

N10030

【作者名】

和波智淳

【あらすじ】

猫はどうして何も無い空間を見つめるのか？

彼は食事とねぐらの提供者から「しろちゃ」と名付けられていたが、実際はその簡単な名前が示すよりもずっと複雑な毛色の持ち主だった。白いののは口元胸元の一部と腹から四肢にかけてであり、茶色なのは頭や耳や背面を主とするその他の部分であったが、それも決して単色ではなく黒色に近い縞模様から明るい日だまりの煉瓦色に近い部分までを含むものであった。

それは同時に「うすちゃ」「こしろ」などと名付けられた姉妹たちの存在を示すものであったが、彼はその名前の由来などほとんど気にすることはなかった。姉妹も、母親も、食事とねぐらの提供者も、彼にとっては一緒に寝る相手、食べ物をくれる相手、ときどき遊び相手、時々気に食わない相手……それで十分だったのだから。それよりも、今はこいつが気になる。

どういうわけか、食事とねぐらの提供者はこいつの存在に気づかないようだった。彼の様子がおかしいことには気づいていて、さつきから何度か「どうしたの、しろちゃ？」などと声をかけてくるが、彼が見ているもののほうにはほとんど注意を向けていないようだった。

母親や姉妹たちはむろん彼と同じに気づいているようだったが、母親は、そんなものにかまわないでおきなさい、と言っただけで、後は気持ちのいい場所にぐったりと寝そべっていた。姉妹たちも今はそんなことより、飛びついたり、取っ組み合ったり、たたき合ったり、噛みつき合ったりするおもしろい遊びに夢中だ。

でも、彼はこいつを何とかしないうちは、そんなことをする気分になれそうになかった。

彼はそいつをじっと見た。

食事とねぐらの提供者が遊びの時に振り回す獲物と同じように扱う必要もなさそうだった。ただ、じーっと見ているだけで、こいつ

がひるんでいるのが分かる。

おい、なんとかやってみるよ。

そんな気分でじつとにらみつけると、そいつはだんだん小さくなった。小さく、小さく、小さくなって、しまいにきゅっと消えてしまった。

ふふん、と得意げな気持ちになって、彼は母親のあたたかい腹にすりよった。

いい加減にしなさい、と夢うつつの母親が言った。あれはまだ小さいからあなたでも何とかなっただけど、ときどき、あたしが何とかしてやらなきゃならないようなものもあるからね。

彼はそのお説教を聞いてはいたが、もうそんなこと気にしていられないくらい、眠気に引き込まれていた。

満足して、彼は眠りについた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1003o/>

子猫

2010年10月10日11時23分発行